

X II—8 内視鏡室

1 概要

内視鏡室は複数科が使用し、感染対策の徹底が困難であるが、感染対策上、最も重要なひとつであると言われている。内視鏡に関する感染リスクを理解し、適切な対策を行うことが重要であり、対策のポイントは、①内視鏡器材の処理、②環境整備、③職業感染防止策、である。

2 内視鏡室における感染のリスク因子

- (1) 消毒・滅菌が不十分な内視鏡および処置具
- (2) 医療従事者や内視鏡室に関係する外部環境
- (3) 検査を受ける患者が有する感染症
- (4) 患者の有する内因性細菌

3 内視鏡室で問題となる微生物

- (1) 緑膿菌
- (2) サルモネラ菌
- (3) MRSA
- (4) 結核菌
- (5) ヘリコバクター・ピロリ菌
- (6) ウイルス (HBV・HCV・HIV)

4 内視鏡室における感染対策

- (1) 内視鏡および処置具の処理
 - ※ 処置具には、シングルユースのもの、滅菌処理が可能なもの、高レベル消毒の必要なものがある。それらの該当器具については、内視鏡室看護基準を参照する。
 - ① 外表面に傷や変形がないか、生検チャンネルに損傷がないか確認する。
 - ② ベッドサイドでの洗浄を行う。
 - ③ 洗い場での洗浄（外表面の洗浄、チャンネル内腔のブラッシング）を行う。
 - ④ 高レベル消毒を行う。
 - ⑤ 十分なすすぎを行う。
 - ⑥ 強制エアや消毒用エタノールなどによる十分な乾燥を行う。
 - ⑦ 細菌の増殖を防止するため乾燥した状態で保管する。また、内視鏡は垂直にかけて保管する。
- (2) 職業感染防止対策
 - ① 検査時は手袋を着用し、患者毎に交換する。また、汚染した手袋で周辺機器に不用意に触れないように留意する。
 - ② 血液や体液曝露のリスクに応じて、プラスチックガウンかエプロンかを選択し、着用する。

- ③ 血液、体液等が飛散する可能性があるため、マスク・ゴーグル等を着用する。
- ④ 気管支鏡検査時は、結核菌曝露防止のため、N95 マスクを着用する。
- ⑤ 内視鏡室内での作業時、アセサイドの蒸気吸入を防護するため、活性炭入りマスクを着用する。

(3) 環境整備

- ① 検査ベッドは体液・血液等で汚染しやすいため、ディスポザブルシートを使用し、検査ごとに取り替える。
- ② ベッド周囲や周辺機器類などは、検査終了ごとにクリアパワーで清拭する。
- ③ トイレの汚染時（大腸内視鏡検査の前処置により汚染しやすい環境にある）は、適宜清掃を行う。
- ④ 血液や消化管内容物で床が汚染した際には、ペーパーなどで簡易的に拭き取り、次亜塩素酸ナトリウム液で消毒する。